

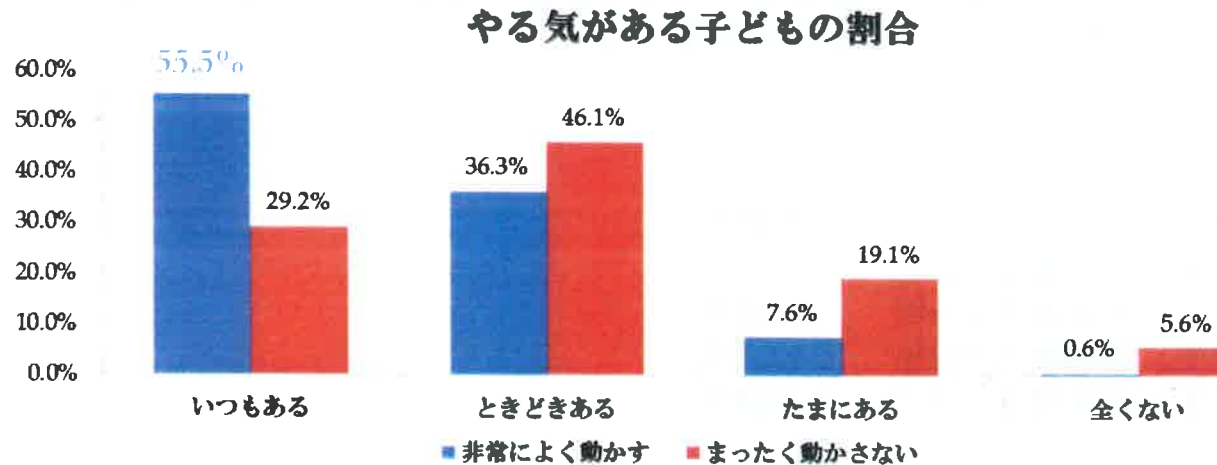
幼児の性格特性と運動習慣との関係

・「園で体を活発に動かす」と「やる気」の関係において、体を活発に動かす頻度が高い幼児ほど不活発な幼児に」比べて「いつもやる気がある」比率が高くなっている。

→「非常によく体を活発に動かす」幼児:5割 「体をまったく活発に動かさない」幼児:3割

※有能感：「自分はできる」という感覚や自信

幼少年期における遊びや運動に関する有能感（運動有能感）は、遊びの経験を通して成功体験によってその基礎がつけられ、その後の運動やスポーツにつながっていく。



文部科学省(2012)幼児期運動指針ガイドブック 引用

水泳の特性と心の成長の関連性

水泳は、水という特殊な環境の中で体を自由自在に動かす技術を身につけていく。課題がスモールステップのため、成功体験を積み上げることができ、努力する力が養われ、自信に繋がると考えられる。

水泳を通した「心」の成長に関するアンケートを実施

目的

遊びを含めた運動・スポーツの減少は、対人関係や対社会関係をうまく構築できない子どもをうむなど、子どもの心の発達にも重大な影響を及ぼすことが教育関連機関および学術団体によって危惧されている。子どもの遊びを含めた運動・スポーツは、子どもの人格形成の基礎となり、自立性・規範的行動・協同性・コミュニケーション能力・やりぬく力（挑戦心・実現力）の育成に重要な役割を果たすと考えられる。水泳を通した子どもの心の成長・人格形成に与える効果を検証するために、イトマンスイミングスクールの保護者および生徒にアンケート調査を実施する。

方法

・対象者

水泳未経験者（小学生）	509回答
4泳法習得前（小学生）水泳歴平均3年	205回答
4泳法習得後（小学生）水泳歴平均6年	414回答
4泳法習得後（中学生）水泳歴平均9年	380回答
4泳法習得後（高校生）水泳歴平均11年	128回答

・アンケート期間

1回目：2017年11月14日～11月28日

2回目：2017年12月22日～2018年1月8日